

Alpha Language Institute In Thailand (Thammasat University)

【海外実習レポート】

【プロフィール】萩原晶子（はぎわらあきこ） [家族構成：夫、長男 23 歳、次男 20 歳]

・現在、ケニア紅茶の販売促進と大学図書館司書のダブルワーク中。趣味のキックボクシングでタイのムエタイキャンプに参加して以来タイの文化に興味を持ち、コロナ禍にタイ語を勉強しタイ語検定 4 級取得。タイ語を勉強する際に日本語の文型と比較しながら学んだため日本語学にも興味を持ち、タイに提携校があるアルファに入学した。修了後はタイで学んだことを生かし、学習者と共に達成感を味わいながら日本語を勉強していく教師になりたい。



学習者は i-pad に教科書を取り込んでタッチペンで書きこみながら勉強。分からぬ言葉はすぐに携帯で調べて、学習者同志がお互いに教え合う。



2月3日は節分。「鬼は～外、福は～内」×2回！
お面をかぶって、福が来た～！（大盛り上がり）



左：筆ペンで「永」の字を練習。

右：「わたし（あきこ先生）はみなさんに粉末みそ汁をあげました。あきこ先生はわたしに粉末みそ汁をくれました。わたしはあきこ先生に粉末みそ汁をもらいました。」L24 より



MY CLASS

担当は 2 クラス、「みん日初級 I」を終了した N4~3 レベルの学習者がもう一度「みん日 I」を復習する「ベーシッククラス」と、N2~1 レベルでビジネス日本語を学ぶ「アドバンスクラス」、5~6 人の小規模クラス。

ベーシッククラスでは、タイ語訳のついた「みん日」教科書を使い、新出語彙や説明はタイ語で理解してもらつたうえで私が日本語で文型の説明、その後は発声練習と練習問題の筆記、時々ブレイクタイム、という流れの教案を作った。語彙制限に気を遣うのが大変だった。

タイに行く前に、みん日 1~50 課までの教案プロットを作つておいたので、それが大変役に立つた。教案ができたら、パワーポイントのスライド作りだが、開始当初は場面に合つたイラスト探しに時間をかけすぎてしまい教案が中途半端になってしまった。そこで、イラスト探しをやめてタイ語テキストを利用することにして、時間を有効に使つた。クラスが午後からだったので前日の夜に教案を作り、当日にスライド作りとリハーサル、というスケジュールを決めて焦ることなく取り組んだ。

アドバンスクラスでは、ビジネスメールの書き方やロールプレイの本を参考にした。学習者から難しい質問が出たとき、答えに詰まる場面があつたり、自分の社会経験から答えることができたりと、教師としての未熟さを痛感させられた。

授業では電子黒板を使用。スライドを作る際、イラスト探しに時間をかけるのをやめて、自分の携帯に入つてゐる自分や家族、風景や食べ物などの写真を使ったところ、学習者の反応がとてもよく、話題も盛り上がつた。タイの文化として、皆自分のプライベートをオープンに話すので、わたしも自分自身や家族の話をして学習者と交流を図つた。ベーシックの学習者はまだ漢字が苦手なので、スライドでは漢字にふりがなをつけることにした。

Alpha Language Institute In Thailand (Thammasat University)**【海外実習レポート】**

E.ローマクス氏の本は2013年に映画化された。
『レイルウェイ 運命の旅路』(The Railway Man)
監督:ジョナサン・テプリツキー
出演:コリン・ファース、真田広之

TRIP TO KANCHANABURI

タイについて学ぶ際、「クワイ河捕虜収容所」Leo Rawlings 著・永瀬隆訳と「陸軍通訳の責任」Eric Lomax・永瀬隆共著を読み、日本人として泰緬鉄道(Death Railway)が建設された地に必ず行かなければと思っていたので、週末を利用してカンチャナブリーに行った。JEATH War Museumに永瀬隆氏の銅像があったがかなりさびれていた。また、連合軍共同墓地には大勢の観光客が訪れていたが日本人は見かけなかった。今回は滞在時間が短く、さらに80キロ先のヘル・ファイア・パスに行くことができなかつたので、次回タイを訪れる際は必ず行こうと思っている。

FOOD&HOBBY

宿泊先には自炊設備がなく食事は毎日外食。広大な大学の敷地内にはレストランも学食もあり、英語のメニューもある。お店の人に通じないときは、隣にいる大学生に英語で話しかけて、注文を手伝ってもらった。校内だけでなく、あらゆる場所に出店があり、曜日ごとに違う場所でナイトマーケットも開かれていて、今日の夕食はどこで何を食べるかが毎日の悩みであり楽しみだった。屋台では英語が通じないので、指差し注文またはお店の人が言ったことにうなづけば、おまかせのおいしい料理を食べることができた。味の濃いタイ料理を食べた後、スイーツやフルーツを食べたが、すべて同じ場所にそろっているので時間もかからず、食事の後の時間を有効に使うことができた。



夕食後はムエタイジムへ行き、授業の失敗やストレスを発散！



「アフリカのケニアへ行ったことがありますか。」
…「いいえ、ありません。どんなところですか。」

**TALK ABOUT KENYA**

日本について紹介…、ではなく、自分はケニア紅茶の仕事をしている関係で日本人にケニアのことを紹介する機会が多いため、その時に使うスライドをタイの学習者向けにアレンジして使った。タイに到着してすぐに自分用にバンコク市内でアフリカ布を購入していたので（日本より安い！）、それを使ったアフリカ・ファッションの体験や、ケニア紅茶の試飲などを行い、ケニアについて知ってもらうことができた。アドバンスクラスの学習者は日本人向けのスライドとほぼ同じ説明にして、ベーシッククラスは語彙制限があるため説明をシンプルにしたが、どちらのクラスからもスライドに用意がない質問が出てきたので、スライドの進め方について自分自身の勉強にもなった。